

# § 4 - 1. 電子情報工学科 / Dept. of Information Electronics

## 1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

### ■教育研究上の目的

現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められている。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。

### ■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

共通コンピテンシー (能力・資質)			定義	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー (編成方針)
DP1	A	幅広い教養	リベラルアーツを目指した知識と思考力	1. 問題解決の指針となる知の基盤として文理を問わない多様な知識を身につけ、実践の場で活用することができる。 2. 自他に対する批判的な思考を基礎として、幅広い視野から物事を捉え、自由な発想に基づいて科学的に思考することにより、的確な判断を下すことができる。	幅広い教養を身につけ、常識的な正解にとらわれない自由な発想に基づいて思考することにより、自主的に判断することができる能力を修得するための科目を配置する。
	B	専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能	電子情報技術者として必要な電子情報工学の専門技術である電気回路・電子回路・計測制御・情報処理・半導体デバイスに関する知識を身につけ、適切に応用することができる。	電子情報技術者として必要な電子情報工学の専門技術に関する知識を身につけ、応用することができる能力を修得するための科目を配置する。
DP2	C	ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	現在の自身の価値観と志向に基づいて将来のキャリアプランを提示することで自分の将来を設計・構想して独自の目標を設定し、その目標実現に必要なスキルを獲得する努力を行うことで成長を目指すことができる。	自分の将来を設計・構想して独自の目標を設定し、その目標に向かって成長を目指すことができる能力を修得するための科目を配置する。
	D	メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	自ら認知している事柄を客観的に把握して不足している知識・能力を補完することにより、現実の制約条件のもとで実行可能な計画を立て、期限までに課題解決を図ることができる。	自ら認知している事柄を客観的に把握し、不足している知識・能力を補完することによって課題解決を図ができる能力を修得するための科目を配置する。
DP3	E	グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	1. 社会とつながり、職場・地域・家庭などさまざまな生活の場で偏見の無い相互理解の下に積極的に他者と関わり、多様性を理解して直面している諸課題に関心を持ち、チームでプロジェクトを意欲的に進めることができる。 2. 地球及び人類の歴史と世界の経済システム及び地球環境問題・エネルギー問題・安全問題等を多面的に物事を考えて理解し、技術の将来を展望することができる。	多様性を理解して地球的視点から多面的に物事を考え、偏見の無い相互理解の下に積極的に他者と関わることによってチームでプロジェクトを進めることができる能力を修得するための科目を配置する。
	F	未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	未来の世代に残していく社会を想像し、そこに至る課題解決に必要な種々の学問・技術を学修することにより、解決を要求される課題に対して必要な技術・要件を把握して解決に至るまでのプロセスを提案することができる。また、創造的な応用能力を発揮してそれを実践することにより、身につけた電子情報技術を発展させることができる。	未来の世代に残していく社会を想像し、それを実現するために必要な電子情報技術を身につけ、発展させることができるとができる能力を修得するための科目を配置する。
DP4	G	デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	1. 自然科学、特に数学・物理学の基礎を修得・理解し、物事を本質から理解する姿勢を持つことができる。 2. 本質的理解を基に、論理的な判断を下す根拠として必要な情報を収集し、取得した情報の真偽を見極め、的確に整理・分析することができる。	数学・自然科学及び情報技術に関する知識を身につけ、それを応用することによって情報を的確に分析することができる能力を修得するための科目を配置する。
	H	発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力	国際的コミュニケーションの基礎能力である語学力を身につけ、外国人と意思疎通することができる。また、論理的な記述力を身につけて論理的かつ明晰な文章を記述できるとともに、コミュニケーション能力を高めて効果的なプレゼンテーションおよび討論を行うことができる。	日本語による論理的な記述力、コミュニケーション能力及び国際的コミュニケーションの基礎能力を身につけ、活用することができる能力を修得するための科目を配置する。

## ■カリキュラム・ポリシー（実施方針）

### 【学修方法】

1	主体的に学ぶ姿勢と学修内容の理解の涵養を目指し、科目の特性を考慮した最適な形態を検討して積極的にアクティブラーニングを導入する。
2	学修ポートフォリオの活用によって日常の学修成果を記録・分析する視点を身につけさせ、将来目指すキャリアとそれを実現するための課題を明確化できるようにする。
3	インターンシップ・就職活動やグローバルプログラムを通して大学での学びと社会との関わりを理解させるとともに、異なる背景や文化を持つ人と協働できるようにする。
4	学修活動全般とりわけ研究活動を通じて数理的なものの見方や情報を的確に分析する能力を修得させ、適切なデジタルツールを活用して情報発信する能力を身につけさせる。

### 【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については各授業科目の成績と学生自身の振り返りで評価し、最終的な達成度を卒業要件に基づく卒業判定によって評価する。

## ■学修領域（教育分野）

- ①電気回路・電子回路などの回路分野
- ②計測制御・情報処理などの情報分野
- ③半導体デバイスなどの物性材料分野